

5月2日（金曜日） 快晴

5時頃起床、外気温8度。3年前は外気温3度だったので今回は多少気温が高めか。
天気は申し分無し。真っ青な天空が広がる完璧な登山日和でした。



のんびり朝風呂に入ったり、ゆっくりと山の支度をしたりして、7時に豪華な朝食を頂きました。

宿のスタッフから、十分な紫外線対策をするようにアドバイスを受けて日焼け止め乳液をしっかりと塗りました。

不要な荷物は全部有明荘に預けて、7時40分に宿を出発。



クマさん会の恒例により、燕岳登山口（1450 m）の中部山岳国立公園標識辺りで集合写真一枚



8時ちょうどに出発



8時35分、第一ベンチ（1600m）に到着

ここではあまりアイゼンを付ける登山者はいま
せんでしたが、我々は熊本さんのアドバイスに従
ってアイゼン装着



8時50分、第一ベンチ出発

登山道の所々に残雪がありました。平日のため登
山客は少ないようです。



9時25分、第二ベンチ（1800m）着



水補給だけの小休止



9時30分、第二ベンチ出発

第二ベンチからは登山道はほとんど雪に覆われていました。アイゼンを装着しているため、かえって楽に安心して歩けました。



10時10分、第三ベンチ（2000m）到着



登りはじめて約2時間
まだまだ余裕



10時20分、第三ベンチ出発

この辺りからはいよいよ急登となり、汗も噴き出してきました。



10時50分、富士見ベンチ着



生憎、ベンチの名前のように富士山は見えませんでした。



11時、次の休憩場所「合戦小屋」を目指して出発

登るに従って樹木がまばらになり、木々の間から表銀座縦走コースの山々が見えてきました。



暫く登ると周りの樹木がグッと少なくなり、見晴らしがきくようになってきた。
そろそろ森林限界か。



11時35分、合戦小屋に到着

順調に登ってきて、熊本さんが計画されたコース
タイムより30分ほど早く着きました。



小屋は休憩が出来るようになっていましたが、天
気がいいので登山客はみんな外のベンチで一休
み。

清涼飲料やホットコーヒーの販売をしていまし
た。



登山者が少ないので、テーブル一つを丸まる占拠
して大休止。



それぞれ持参の弁当やパンで昼食
風もほとんどなく、温かい日差しを浴びながらの
昼ご飯でした。



12時5分

合戦沢ノ頭（大雪原展望台）経由で燕山荘に向けて出発

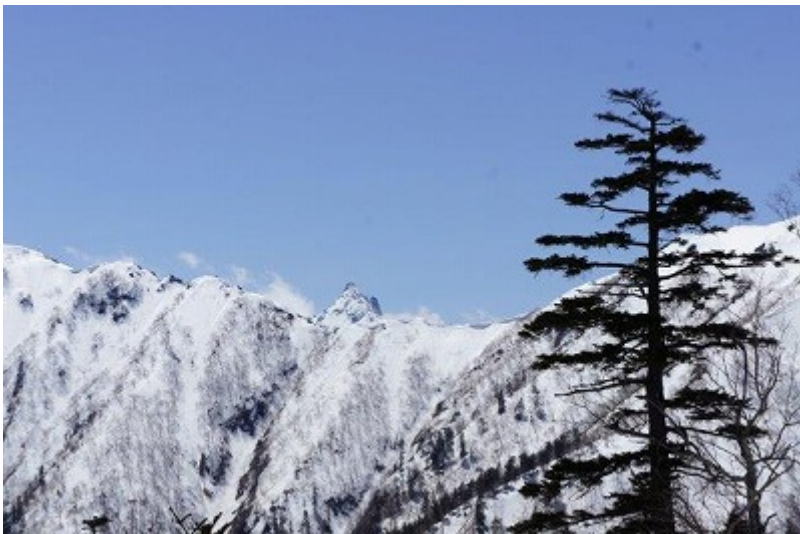


ご覧の通りのかなりの急登だが、残雪が覆っている
のでかえって登りやすい。



12時半に合戦沢ノ頭（大雪原展望台）に到着

表銀座縦走コースとなっている大天井岳に連なる山々がグッと近くに見えだしました。



縦走コースの先には槍ヶ岳の特徴ある山頂が覗き始めました。



遥か遠くの槍ヶ岳山頂を借景にして写真を一枚



ここからは、燕山荘やその右手の燕岳も見えてきました。

見た目には近くに感じましたが、60分は歩かないと山小屋には着きません。

12時40分に合戦沢ノ頭を出発



登るにつれて槍ヶ岳の山頂部が益々くっきりと！



足を止めて、雪山の美しさに見とれる半澤さん



槍ヶ岳の全容が目の前に！

手前に見える尾根が表銀座縦走コース



小休止の度に、うっとりと見とれる半澤さん

「いいね～、最高だね～、これだから山は止められね～」



もうひと踏ん張りで山小屋に！



頂きの山小屋がはっきりと見えだしました。

小屋下の登りが、最後の急登



小屋の右手には、こんな雪庇が張り出していました。



13時45分、急坂を登り切ってやっと燕山荘に到着



小屋に隣接の平坦地では、テント泊まりの登山客がテント張りに余念がありません。



チェックイン（1人 一泊2食で9800円也）を済ませて、ベンチで暫し休憩



1 4 時 5 分

重いザックはベンチに置いて燕岳を目指すします。



何度見ても美しい、小屋から燕岳までの登山道。花崗岩の奇岩が登山道脇に立ち並んでいます。



歩き始めてすぐのところから槍ヶ岳を望む。



「いるか岩」をバックに！



「2つ槍ヶ岳」



いくら見ても見飽きない絶景



「恐竜岩 ツバクロザウルス」



「集う3匹のアシカ」

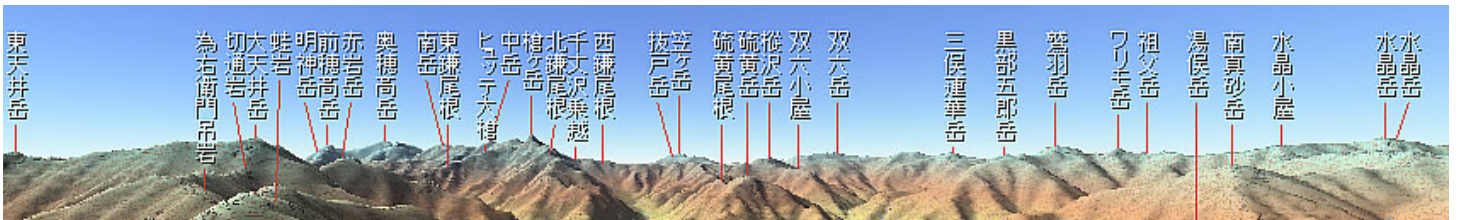


14時50分、絶景を楽しみながらゆっくりゆっくり歩いて、遂に燕岳山頂（2763m）に到着



クマさん旗を掲げて記念写真

山頂からのパノラマ



15時5分

風もなく温かです。いつまでも山頂に居たかったのですが、後ろ髪を引かれながら山小屋に戻ることになりました。



戻りの登山道で、雪解け水の僅かな流れに身を沈めて水浴びに興じる「イワヒバリ」がいました。一步踏み出せば踏みつけそうな距離で登山客5, 6人が眺めていましたが、一切気にせず毛づくろいに余念がありませんでした。

辞典によれば、イワヒバリは本州中部の山岳地帯に生息し、昆虫や草の種子を餌にしているとのこと。

「キュルリキュルリ」と美声で鳴く。



戻る登山道の遙か遠く、我々が泊まる燕山荘が見えています。



15時35分、山小屋着

写真は、山小屋の受付

左の男性は、小屋のオーナー赤沼健至さん。運が良ければ食堂でアルプホルンを吹いてくれますが、今回は残念。その代わり雪山登山の諸注意などを聞くことが出来ました。



登山客を迎える入口

雪の重さに耐えるよう何本もの鉄製支柱が天井を支えています。



入口左の売店

山に必要なものはそこそこ調達できます。



我々の泊まる部屋がある2階の通路



通路脇には、靴、アイゼンなどを置く場所が準備



部屋の入口には、太い丸太が斜交い（はすかい）にはめ込まれていました。これも冬の雪の重さに耐えるためとか。屋根の雪が溶けると外されるようです。

厄介なのは出入り。身体をかがめて、更に斜めに傾けないと通れない代物。暗闇にヘッドランプを頼りにトイレに立つのはなかなか大変。身体の大きな半澤さん、ご苦労さまでした！



部屋は4畳半くらいで、収容人数6人

幸いに我々4人で独占できたので、何とかゆっくりと寝ることが出来ました。明日からの本格的な連休に入るとそうは問屋が卸さないようです。



食事前に生ビールで乾杯



5時半に夕食

腹ぺこで大層うまく頂きました。
ただ、半澤さんは生ビールが効いて軽い高山病に
罹ったようで、食があまり進まなかったようで
す。心臓も少々パクパクしたとか。



日の入りは18時30分ごろ

夕日をうけて、テントがおとぎの国のようでした。



夕日を受けた槍ヶ岳



太陽は烏帽子岳、不動岳辺りに沈んで行きました。

小屋のオーナー赤沼さんの話では、5月に入って今日のような登山日和に恵まれるのは極めてラッキーとのこと。明日の午前中までこの晴れ渡った天気が続きそうなので、我々は実についていたのです。平素の4人の行い故とは言え、山の神に感謝！！